



## 地域ブロック情報

日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。今年度から、各地域ブロックの活動について順次ご紹介していきます。

今号は、関東地域ブロックと中部地域ブロックをとりあげます。

### 関東地域ブロック から

関東地域ブロック担当理事

大島 巖(日本社会事業大学)

関東地域ブロック部会(関東部会)は、会員数約1850人(2013.8現在)で全国会員の35%を占める地域部会最大の部会である。

一方で部会の立地上の特性として、各種学会・研究会の開催が多い東京圏域にあるために、一般的な研究・研修・研究交流の機会を用意するというよりは、大学院の学生など社会福祉学研究に取り組み始めた者や、さらなる報告機会を求めている研究者や実践家の研究活動の活性化と研究交流の促進に焦点を当てて部会活動を行っている。

このため、部会の基本的な活動目標は、関東部会会員、特に若手研究者・実践家の研究活動の活性化と研究交流の促進としている。

関東部会の主な活動は、(1)部会研究大会の開催(例年3月上旬土曜日に開催)、(2)社会福祉学評論を電子ジャーナルとして発行、(3)ホームページ、およびニューズレターによる研究交流活動である。

このうち、部会研究大会では、主に若手研究者・実践家向けの自由研究発表として、①研究報告部門、②萌芽的研究報告部門、③実践報告部門を設け、たとえば研究報告部門では報告・質疑応答合わせて50分と十分な時間をかけて議論ができるように配慮している。さらに指定発言者や座長として、関東部会運営委員を中心とした各領域第一線で活躍する研究者・教員を設定している。また2012年度から研究報告の中から研究大会奨励賞を授与することにした。

また社会福祉学評論は、大学院生など社会福祉学研究に取り組み始めた者やさらなる報告機会を求めている研究者や実践者の研究成果を発表する機会を増やすことを目標に電子ジャーナルで発刊している。投稿時期は随時とし、2名の査読委員による査読の結果、掲載可となれば速やかに電子ジャーナル上で公開することを目指している。また査読は、可能な限り掲載に向けた教育的な査読を行っている。

ホームページについては、会員所属大学の学内学会・博士論文公開審査・最終講義などの情報を掲載すると共に、社会福祉学評論の全バックナンバー掲載、CiNiiへの抄録掲載、ホームページ更新に併せたメルマガの発信、twitterの活用などを行っている。

若手研究者・実践家への窓口を大きく開き、さらには社会福祉学会への加入を促進するために、会員外の関心のある方にも研究大会に参加を可能にし、自由研究報告には報告者が大学院生の場合は学会員でなくても指導教員が学会員であり、かつ承諾を得ていれば発表できることにした。さらにホームページへのアクセスを良くして、会員拡大の窓口になることを目指している。

## 中部地域ブロック から

中部地域ブロック担当理事

柴田 謙治(金城学院大学)

中部ブロック部会は日本社会福祉学会創設の11年後にあたる1965年に日本福祉大学で最初の研究例会が開催され、28人の会員から出発しました。中部ブロック部会の研究例会の特徴は、①社会福祉政策の動向やクローズアップされる領域を取り上げた記念講演やシンポジウム、②関連学会や団体との共同開催への配慮、③部会を超えた地域からの講師等の招聘、④自由論題発表希望者の受け入れ、⑤実践と政策を統合化した理論への志向、でした(高島進「第4章 中部部会史」日本社会福祉学会編『社会福祉学研究の50年—日本社会福祉学会のあゆみ』ミネルヴァ書房、2004年、p.407,pp.410~411)。

2013年5月1日の時点では、中部ブロック部会の正会員は658人と、関東ブロック、関西ブロックに次ぐ会員数です。愛知県立大学、愛知淑徳大学、愛知みずほ大学、金城学院大学、静岡県立大学、中京大学、中部学院大学、名古屋市立大学、日本福祉大学等による「常任幹事会」を年に4回開き、そこに福井県立大学等、福井県、富山県、石川県、静岡県、長野県にある福祉系大学の会員を加えた「拡大幹事会」を年に1回開いて、部会を運営しています。

2010年の3月には中部ブロック部会の機関誌である『中部社会福祉学研究』を創刊し、今年発行された第4号からはPDF化し、日本社会福祉学会のホームページの中部ブロック部会のコーナーにアップロードしています。また2013年度からの新規企画として、次世代育成のために「第1回 若手会員のための勉強会—社会福祉研究の方法を学ぶ」を11月8日(金)の18時~20時に企画しています(詳細については、日本社会福祉学会のホームページの中部ブロック部会のコーナーをご参照ください)。

私も「中高年!」になりましたので、これからは中部ブロック部会を上記のような「若い力」が活躍できるような場にしていきたいと思います。ブロック内外の皆様、よろしくお願ひいたします。